

APT-J3 トンガ e-Disaster プロジェクト完了

通信技術・システム部長 田村正人

2014年3月20日、南太平洋のトンガ王国にて防災 ICT パイロットシステムの完成式典が、トンガ国皇太子殿下・皇太子妃殿下、首相以下各大臣、在トンガ日本国大使館など各国駐在公館代表などの列席のもとに盛大に執り行われました。JTEC から田村が式典準備も兼ねて出席しました。(写真1：式典で早期警報サイレンを起動するトゥポウトウルクララ皇太子殿下。写真2：基調講演を行うツイヴァカノ首相)



(写真1)



(写真2)

このプロジェクトは日本政府特別拠出金によるアジア・太平洋電気通信共同体(APT)の ICT パイロット・プロジェクト(APT-EBC-J3) として実施されたものです。JTEC がプロジェクトを形成し、トンガ政府、関係機関及び日本側プロジェクトメンバーの共同体制をコーディネートして APT に申請、採択され、所定の1年間で設計・構築・評価を実施しこのほど完成を迎え本格運用に供することになりました。

(写真3：完成式典会場となったカノクポール小学校の同報放送スピーカー)

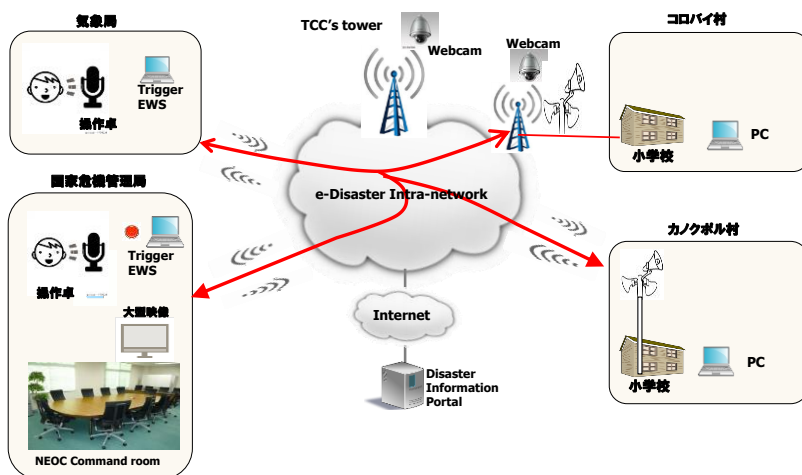


(写真 3)

今回整備したパイロットシステムは、津波被害軽減を目的とした早期予警報システム（EWS）と、防災関連組織における情報共有や国民への情報発信に威力を発揮する国家防災ポータルサイト、高所カメラ映像システムなどからなる防災情報システム（DIS）で構成されています。

(図 1：パイロットシステムの概念図)

(図 2：国家防災ポータルサイトのトップ画面)



(図 1)



(図 2)

プロジェクトの実施にあたっては、トンガ国政府、通信事業者、放送局等の全面協力を得て、既存の携帯基地局鉄塔や無停電電源の提供を受けるなど、現地側と息の合った活動ができました。また基盤ネットワークとして今回整備した 4.9GHz 帯ブロードバンド IP 無線システムの利点を活かし、高所監視カメラで島内の様子を見渡せたり、プロジェクトサイトとなった小学校にインターネットを提供するなど、平常時に防災以外の用途にも活用したいというトンガ側のニーズを実現したものとしました。(写真 4：高さ 60m に設置した高所監視カメラからの映像)



(写真 4)

トンガは人口約 10 万人、地勢的に地震、津波、サイクロンなど自然災害に極めて脆弱であり、海面上昇など気象変動の脅威にもさらされているため、防災対策に特に力を

入れています。私たちのトンガでの取組は、2011年当時トンガ政府情報通信省に派遣されていた JICA シニアボランティア（ICT 海外ボランティア会会員）との連携から始まり、2012年に実施したトンガ政府との防災 ICT（e-Disaster）の共同研究の実施が今回のパイロットシステムの出発点となりました。

本プロジェクトは、トンガ政府内でも国家全体の防災能力向上に向けた施設整備の第一ステップの位置付けられています。JTEC ではこのプロジェクトの成果がトンガ国のハイリスクエリア全体に、そして同様な状況の国々に暮らす人々の安全に結びつくような開発案件の形成に結び付けられるよう引き続き取り組んで参ります。

これまでの足掛 2 年間のトンガでの活動を振り返りながら、今回の完成式典でトンガチームから表現された私たち日本のプロジェクトメンバーへの感謝の気持ちや今後への期待をしっかりと受け止め、確実に次につなげて行かなければとの思いを新たにしました。次第です。（写真 5：完成式典で披露されたカノクポル村小学生による踊り）

なおこのプロジェクトは日本無線㈱、ICT 海外ボランティア会と共同で実施しました。この場をお借りして関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



（写真 5）